

(二) 我何の面目ありて之に見えん

垓下の包囲を破つて脱出した項羽は、直属の部下八百騎ほどと南に向けて敗走した。追つ手の漢軍は五千騎。淮河を渡る頃には従う騎馬は百数十騎となり、陰陵（現在の安徽省滁州市定遠県の西）を経て東城に至ると二十八騎を残すだけとなった。「拳兵以来八年、七十余戦して敵を蹴散らし、自分は天下を取ったのだ。今、ここで苦しい状況にあるのは、天が自分を滅ぼすのであって、戦がまずいためではない。」項羽は、幾重にも敵に包囲された状況で、部下にそう告げると必死の覚悟で囲みを破り、烏江に向かった。

於是項王乃欲東渡烏江。烏江亭長、檣船待。謂項王曰、江東雖小、地方千里、衆數十萬人。亦足王也。願大王急渡。今獨臣有船。漢軍至、無以渡。項王笑曰、天之亡我、我何渡為。且

1 烏江 地現在の安徽省馬鞍山市和県の北東、長江の北岸に当たる。
2 亭長 宿駅の長。
3 檣船 舟を出す用意をする。
4 江東 地長江下流の南岸一帯の地。
5 方千里 千里四方。疆土地が十分な広さであることをいう。
6 獨臣 ただ自分だけが。句法「獨」は、ここでは、限定の形。
7 何…為 どうして…しようか。句法反語の形。「為」は、ここでは、反語の意味を表す助字。
8 獨…乎 句法反語の形。「獨」は、ここでは、「何」と同じ働きをもつ。
9 長者 徳の高い人。
10 短兵 刀剣などの短い武器。句法「兵」は、剣やほこなどの武器。
11 騎司馬 官名。騎兵を指揮する。

5

10

籍与江東子弟八千人、渡江而西、今無一人還。縱江東父兄憐而王我、我何面目見之。縱彼不言、籍獨不愧於心乎。乃謂亭長曰、吾知公長者。吾騎此馬五歲、所當無敵。嘗一日行千里、不忍殺之、以賜公。

5

乃令騎皆下馬步行、持短兵接戰。獨項王所殺漢軍數百人。項王身亦被二十余創。顧見漢騎司馬呂馬童曰、若非吾故人乎。馬童面之、指王翳曰、此項王也。項王乃曰、吾聞漢購我頭千金、邑萬戶。吾為若徳、乃自刎而死。

10

12 呂馬童 囚？一前一七一。漢軍の騎兵隊長。もと項王の部下であった。
13 面 顔を向ける。直面して見る。句法一説に、「そむく」と読み、顔をそむける。
14 王翳 項王を追撃した漢軍の武將。
15 購 賞を懸けて求める。
16 邑萬戶 戸数一万にのぼる土地。
17 徳 恩恵を施す。
18 自刎而死 自分で自分の首をはねて死んだ。句法漢の高祖の五年（前二〇二）一二月、三二歳であった。

▽訓読で注意する文字
雖（雖も）亦（亦た）嘗（嘗て）
非（非ず）

句法
獨臣有船。「限定」 ↓付録34ページ
何渡為。「反語」 ↓27ページ
縱江東父兄憐而王我…。「假定」 ↓25ページ
何面目見之。「反語」 ↓23ページ
縱彼不言…。「假定」 ↓25ページ
獨不愧於心乎。「反語」 ↓23ページ
令騎皆下馬步行…。「使役」 ↓20ページ
…乎。「疑問」 ↓22ページ

(史記、項羽本紀)